

# Europe Trends

発表日：2020年4月15日(水)

## 欧州の都市封鎖はいつまで続く？

～データと先行事例から読み解けること～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

- ◇ 感染拡大が続く欧州では、オーストリアなどが社会距離政策の一部解除を開始した。各国で感染者がピークアウト傾向にあるものの、イタリアやスペインでは1日に数千人の新規感染者と数百人の死者が出ている。先行してピークアウトした中国で制限解除が本格化したのは、感染者がピーク比半減してから約1ヵ月後。このままのペースで感染者が減少した場合、イタリアやスペインで感染者が半減するのは5月初旬。本格的な制限解除は6月以降にずれ込む可能性もある。

欧州各国で新型コロナウイルスの感染拡大が続いているが、新規感染者の増加ペースがやや鈍り、回復者の数が増加してきた。各国が厳しい外出制限や学校休校といった社会距離政策を開始したのは3月初旬頃（図表1）。そこから1ヵ月程度が経過し、制限緩和を求める声も浮上している。都市封鎖の影響が売上や収入の減少、解雇や倒産の増加といった形で経済活動や市民生活に現れ始めている。隔離疲れも広がっており、春の訪れとともに外出機会を求める人も増えつつある。

こうしたなか、一部の国は感染予防策を講じつつ、段階的な制限緩和に動き出している。オーストリアでは14日から小規模な商店の営業が再開され、5月1日からはショッピング・モールや理髪美容店が、5月中旬にはレストランやホテルなどの営業再開が計画されている。デンマークは15日から幼稚園と小学校を再開する。チェコやポーランドも一部の制限を解除する。欧州内で感染者・死者が多いイタリアとスペインでも14日から一部の制限を解除した。イタリアでは州によって対応が異なるが、書店、文具店、乳幼児用の衣料品店の営業が再開され、スペインでは建設、重工業、清掃作業員、警備員、家政婦、修理工などの労働再開が認められる。ただ、イタリアやスペインでは今も毎日4,000人余りの感染者と500～600人の死者が出ている厳しい状況だ。全面的な社会距離政策の解除までにはなお時間が掛かりそうだ。イタリアは一部の制限を解除する一方で、少なくとも5月3日まで都市封鎖を延長することを決定した。

（図表1）感染封じ込めを目指した欧州主要国の対応開始日

	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン	英国
集会イベント中止	3月20日	2月29日	3月5日	3月10日	3月17日
学校休校	3月15日	3月16日	3月5日	3月15日	3月23日
店舗閉鎖	—	3月14日	3月10日	3月15日	3月21日
外出禁止	3月22日	3月17日	3月10日	3月16日	3月24日
国境封鎖	3月16日	—	3月10日	3月16日	—
生産停止	—	—	3月26日	3月29日	—

出所：Politicoより第一生命経済研究所が作成

制限を解除するか判断は、感染拡大の状況、再拡大のリスク、医療システムへの負荷、経済的な打撃の大きさ、個別の事情などに基づいて行われる。欧州委員会は15日に、社会距離政策の解除に向けたロードマップの公表を予定している。制限解除の判断は各国が置かれている状況によって異なり、一般化することは難しい。ただ、先行して制限を解除した国の事例から、何らかのヒントが得られるかもしれない。ここではオックスフォード大学による世界各国政府のコロナ対応トラッカー（OxCGRT）の集計データと対応の度合いを数値化した厳格度指数（Stringency Index）を使って、感染者のピークアウトと制限解除との時間的な関係を考察する。

厳格度指数は、①学校・大学の休校、②職場の閉鎖、③公共イベントの中止、④公共交通機関の停止、⑤国民への啓蒙活動、⑥国内の移動制限、⑦海外の渡航制限の7項目を算術平均したもの。各項目は、当該政策の実施/不実施だけでなく、義務か/要請か、全国一律か/地域限定か—などによってスコアリングされる（図表2）。各項目について想定される最大スコアに対する獲得スコアを百分率で計算し、それを7項目で平均したものが厳格度指数となる。指数は0～100の値を取り、スコアリング項目の全てを満たさない場合に0、全てを満たす場合に100となる。

（図表2）コロナ対応の厳格度指数の構成項目とスコアリング基準

コード	項目	スコア判定方法	
S1	学校・大学の休校	なし(0)、要請(1)、義務(2)	地域限定(0)、全国(1)
S2	職場の閉鎖	なし(0)、要請(1)、義務(2)	地域限定(0)、全国(1)
S3	公共イベントの中止	なし(0)、要請(1)、義務(2)	地域限定(0)、全国(1)
S4	公共交通機関の停止	なし(0)、要請(1)、義務(2)	地域限定(0)、全国(1)
S5	国民への啓蒙活動	なし(0)、あり(1)	地域限定(0)、全国(1)
S6	国内の移動制限	なし(0)、要請(1)、義務(2)	地域限定(0)、全国(1)
S7	海外の渡航制限	なし(0)、監視(1)、高リスク地域の検疫(2)、高リスク地域の禁止(3)	

注：括弧内はスコア

出所：Oxford COVID-19 Government Response Tracker, Blavatnik School of Government資料より  
第一生命経済研究所が作成

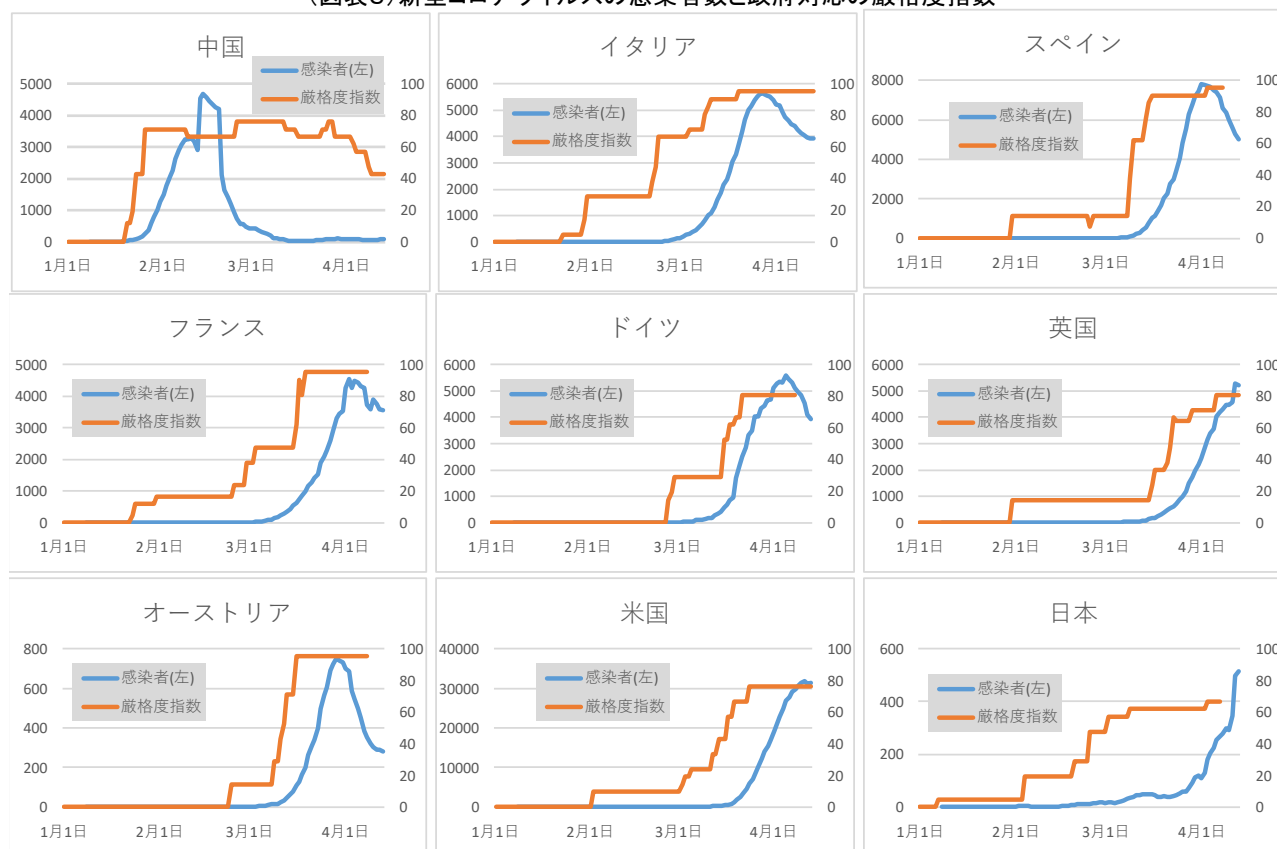
先行して感染者がピークアウトした中国では、3月下旬以降、段階的に制限が緩和されている（図表3）。指数の水準がイタリアやスペインと比べて低いのは、制限の多くが地域を限定にしたものであるため、強制力の程度は指数に反映されていない。その中国での感染者の推移と厳格度指数をプロットすると、7日移動平均でみた1日当たりの新規感染者（以下同じ）のピークが2月14日に4,688人、感染者がピーク時対比で半減したのが2月20日、1,000人を下回ったのが2月24日、100人を下回ったのが3月10日、厳格度指数が初めて低下に転じたのが3月12日、いったん上昇した後、再度低下に転じたのが3月28日、50%未満に低下したのが4月8日といった具合だ。

欧州内でいち早く制限緩和に動き出したオーストリアは、3月29日に752人で感染者がピークアウトし、4月13日の感染者はピーク時の半分以下の279人まで低下している。その他の欧州諸国の感染ピークアウトと4月13日時点のピーク比減少率は、イタリアが3月27日（5,643人）→4月13日（3,916人）で▲30.6%、スペインが4月1日（7,821人）→4月13日（5,037人）で▲35.6%、フランスが4月2日（4,537人）→4月13日（3,561人）で▲21.5%、ドイツが4月5日（5,595人）→4

月13日(3,946人)で▲29.5%と、新規感染者が数千人単位で発生、ピーク比の下落率も2～3割程度にとどまる。英国は4月12日(5,298人)→4月13日(5,210人)で▲1.7%と、こちらはピークアウトしたかどうか定かでない。参考までに、米国は英国同様にどうにか感染がピークアウトの兆しをみせつつある段階で、日本は感染者のレベルこそ低い、感染拡大の途上にある。

ピークアウト後の感染者の下落ペースは、中国がかなり鋭角的であるのに対し、欧州内で感染者が多いイタリア、スペイン、フランス、ドイツの下落ペースは緩やかだ。このペースの下落率が続くと仮定した場合、感染者がピーク比半減するのは、イタリアで4月21日、スペインで4月19日、フランスで4月26日、ドイツで4月20日となり、1,000人を下回るのはイタリアで5月7日、スペインで5月1日、フランスで5月10日、ドイツで4月28日の計算となる。中国ですら感染者が1,000人を切ってから、本格的な制限解除までに1ヵ月余りを要した。こうしたスケジュール感からは、欧州諸国の本格的な制限解除が6月以降にずれ込むことも十分に考えられる。

(図表3)新型コロナウイルスの感染者数と政府対応の厳格度指数



注:感染者数は1日当たりの新規感染者数の7日移動平均値

出所:Oxford COVID-19 Government Response Tracker, Blavatnik School of Government資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。